

立命館大学国際平和ミュージアムの2002年度事業記録

I 管理・運営概要

1. 組織

●館長

安斎育郎

●企画局長

岡田英樹

●課長

友藤信明

●職員

山辺昌彦

和田真 (2002年4月30日まで)

伏屋貴司 (2002年5月1日から)

●契約職員

石井里佳子

久保山淑子

西田茜

西田洋美

吉村涼子 (2003年2月28日まで)

渡辺久栄

2. 施設

地下一階

常設展示室 751.40㎡

準備作業室 175.79㎡

収蔵庫 92.56㎡

一階

多目的ホール 327.60㎡

事務室 90.95㎡

ラウンジ 387.85㎡

二階

館長室 41.05㎡

会議室 286.64㎡

3. 企画運営委員会

第1回 2002年5月23日

第2回 2002年10月22日

第3回 2003年3月13日

企画運営委員2002年度名簿

赤沢史朗	法学部
宇野木洋	法学部
藤岡惇	経済学部
藤田敬司	経営学部
森田真樹	産業社会学部
滝沢邦彦	国際関係学部
安江則子	政策科学部
山崎有恒	文学部
富田美香	文学部
遠藤彰	理工学部
松岡正美	特任教授
井口和起	京都府立大学
吉田保	関西文理学院
亀田康治	教育研究事業部次長
佐々木浩二	広報課

II 事業概要

1. 資料収集・保管

①寄贈・寄託・保管

博物館資料を、館藏品と寄託とのそれぞれについて、物資料・文書資料・図書に分け、常設展示テーマにそった分類番号を付し、出所先ごとに整理し、収納している。

②燻蒸

2002年度は、夏期休館中の9月2日～5日に、収蔵資料を包み込み方式で、エキボンガスを注入し、24時間の燻蒸をおこなった。

2. 展示

①常設展の参観者

入館者数は次表の通りである。

年度	個人	団体	全体
2002	14517	23952	38469

②常設展の更新

昨年度に引き継いで、国際平和ミュージアム高度化推進委員会において検討し、2003年3月17日の第3回委員会において、展示計画を含む「政策検討委員会」と「リニューアル検討委員会」の答申を決定した。

③特別展の開催

特別展の開催状況は以下の通りである。

●画用紙に残された、あのこと—舞鶴市明倫国民学校

梅田学級児童画展

I. 展示会、舞鶴会場

会期：2002年4月18日（木）～22日（月）

会場：舞鶴市西駅交流センター 3階ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

共催：舞鶴市 舞鶴市教育委員会

後援：舞鶴市立明倫小学校

参観者：812人

II. 記念講演会、舞鶴会場

日：2002年4月21日（日）

会場：舞鶴市西駅交流センター 3階第2会議室

講師：吉田ちづる（立命館大学卒業論文で、梅田学級児童画を研究）

小森正弘（元明倫国民学校梅田学級児童で、児童画保存に尽力）

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参加者：42人

III. 展示会、国際平和ミュージアム会場

会期：2002年11月1日（金）～12月1日（日）

会場：国際平和ミュージアム 中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

後援：京都府教育委員会

協力：舞鶴市立明倫小学校

参観者：4953人

IV. 記念講演会、国際平和ミュージアム会場

日：2002年11月17日（日）

会場：立命館大学国際平和ミュージアム 209会議室

講師：吉田ちづる（立命館大学卒業論文で、梅田学級児童画を研究）

布川晃（元明倫国民学校梅田学級児童で、京都大学名誉教授）

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参加者：65人

V. 刊行物

舞鶴市明倫国民学校梅田学級児童画集

感想文集

*特別展関連の研究成果として、展示企画・準備の中心だった吉田ちづる氏の論文と、秋期国際平和ミュージアム会場展における布川晃氏の講演記録とを『立命館平和研究』第4号に収録

●特別展：REQUIEM インドシナ写真展—戦場に散ったフォトジャーナリストたちの記録

I. 展示会

会期：2002年5月16日（木）～6月13日（木）

会場：国際平和ミュージアム 中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

All photographs by courtesy of Indochina Photo Requiem Project

参観者：9022人

II. 記念シンポジウム

日：2002年5月22日（水）

会場：立命館大学以学館1号

題：現代の戦争とジャーナリズム

報告者：大空博（立命館大学国際関係学部教授）

奥西義和（読売新聞社写真部記者）

石井利尚（読売新聞社国際部記者）

小島敦（読売新聞社調査研究本部長）

司会：安斎育郎

（立命館大学国際平和ミュージアム館長）

参加者：約1300人

III. 刊行物

感想文集

●特別展：世界報道写真展 2002

I. 展示会

会期：2002年9月27日（金）～10月20日（日）

会場：国際平和ミュージアム 中野記念ホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真財団

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

社団法人日本写真協会

社団法人日本写真家協会

協賛：キャノン株式会社

キャノン販売株式会社

イーストマン・コダック社

KLMオランダ航空

参観者：8124人

II. 刊行物

感想文集

●特別展：百年の愚行

I. 展示会

会期：2002年11月21日（木）～12月20日（金）

会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命21 エポックホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

協力：Think the Earthプロジェクト

写真協力：株式会社コーピス ジャパン、マグナム・フォト東京支社

参観者：1493人

II. 記念シンポジウム

日：2002年11月29日（金）

会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス プリズムハウス101号教室

報告者：兵藤友博（立命館大学経営学部教授）

山田淳（立命館大学理工学部教授）

司会：安斎育郎

（立命館大学国際平和ミュージアム館長）

参加者：63人

III. 刊行物

感想文集

3. 教育・普及活動

①学芸員実務実習

2002年度の学芸員実務の館務実習は、8月7～11日と13日の日程で、立命館大学5名、京都橘女子大学5名、京都外国語大学1名の合計9名を受け入れ、特別展展示プランの作成、資料整理、受付業務などを中心におこなった。

実習生名と作成した展示プランは以下のとおりである。

中井千佳 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
沖縄における皇民化・同化政策について

土橋潤二 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
「ベルリンの壁」と「鉄のカーテン」—ヨーロッパ東西分断の半世紀

荒垣和孝 立命館大学文学部人文総合科学インスティテュート人間と表現領域

世界中が危ない—戦争ラッシュの今

中村浩子 立命館大学文学部科目等履修生

日韓交流—朝鮮通信使の時代から現在へ

窪田洋子 立命館大学文学部科目等履修生

戦争プロパガンダと子どもたち

小西美由紀 京都橘女子大学文学部英語コミュニケーション学科

核兵器の恐怖

高峯朋子 京都橘女子大学文学部英語コミュニケーション学科

悪魔の地雷

岩本泰子 京都橘女子大学文学部歴史学科世界史コース

日鮮融和の礎として—李王朝最後の皇太子李垠に嫁いだ李方子

白波瀬朱里 京都橘女子大学文学部歴史学科世界史コース

引揚げ

森亜津子 京都橘女子大学文学部科目等履修生
立命館大学大学院経営学科在学

企業整備と市民生活—京都企業とそれを支えた市民
福田早智子 京都外国語大学外国語学部英米語学科
マンガにみる戦下の日本

2002年度の学芸員実務実習については、館務実習（定時コース）以外に、立命館大学の選択コースを受け入れた。これは通常は、博物館の見学をおこなうものであるが、今回は秋の特別展「画用紙に残された、あのことろ—舞鶴市明倫国民学校梅田学級児童画展」の展示設営時と撤去時に、実際の作業に取り組むことを中心にし、設営編と撤去編に分けて実施した。学芸員課程

としての事前指導と事後指導は、いずれも国際平和ミュージアムの企画運営委員でもある富田美香文学部助教授が担当した。

設営編は、11名が参加し、ガイダンスを10月22日に1時間半、実際の作業を10月29日と30日にわたって各自が4時間半おこなう形をとった。ガイダンスでは児童画のパネルへの挿入もおこない、実際の作業としては展示ボードや展示ケースの設営、展示資料を掛けること、解説パネルとキャプションの貼り付けなどをおこなった。

撤去編は、10名が参加し、12月1日に、ガイダンスと実際の作業を続けて実施した。作業は絵・解説パネル・キャプションをはずすこと、ボードと展示ケースの解体・収納、パネルから児童画の取り出しとファイルへの収納、収蔵庫の見学などをおこなった。

②インターンシップの受け入れ

立命館大学文学部インディペンデント・スタディ型インターンシップの実習生として、日本史専攻4回生の山田三恵氏を2002年12月4日から21日までの期間受け入れた。

③研修受け入れ

2002年度も国際協力事業団の「博物館技術コース」の研修に協力した。

2002年10月4日に、「テーマ展示のあり方」というテーマのもとに見学研修を受け入れた。内容は、館長の講演と常設展、収蔵庫・作業室などの見学である。

また、「ユネスコとの連携による博物館学芸員養成（東チモール）コース」にも協力し、2003年1月31日に「テーマ展示のあり方」というテーマにより、見学研修を受け入れ、館長の講演と常設展などの見学をおこなった。

4. 交流事業

①日本平和博物館会議

第9回平和博物館会議は、「神奈川県立地球市民かながわプラザ」が開催館となり、同館を会場にして2002年10月17・18日に開催され、立命館大学国際平和ミュージアムも参加した。

②「平和のための博物館市民ネットワーク」

第2回全国交流会が、2002年8月25日に、甲府市の山梨学院大学において、「戦争遺跡保存全国シンポジウム」の中に組み込まれる形で開催された。そこでの

報告は、『立命館平和研究—国際平和ミュージアム紀要—』第4号に加筆の上掲載された。英語版のニュースレター“Muse”第7号と第8号を2002年6月と12月に、日本語版の「ミューズ」第7号～第9号を2002年5月、8月、11月にそれぞれ発行した。

5. 刊行物

①紀要

『立命館平和研究—国際平和ミュージアム紀要—』第4号を2003年3月25日に刊行した。

内容は以下の通りである。

特集1 平和のための博物館・市民ネットワーク第2回全国交流会報告

平和博物館をめぐる現状について—特集にあたって（山辺昌彦）

平和博物館、平和博物館建設運動の現状と課題（山根和代）

学生の戦争観・平和意識と立命館大学国際平和ミュージアム（森下徹）

東京大空襲・戦災資料センター建設までの経過と建設後の反響と課題（梶慶一郎）

第五福竜丸展示館で若い世代に伝えるとりくみ（安田和也）

「教科書が伝える戦争」を軸に次世代への継承（吉岡数子）

特集2 舞鶴市明倫国民学校梅田学級児童画

特集にあたって（山辺昌彦）

軍港舞鶴の児童画（吉田ちづる）

梅田作次郎先生の思い出（布川晃）

核抑止論の虚構とブッシュ政権の核兵器政策（安斎育郎）

立命館大学国際平和ミュージアム2001年度事業記録（山辺昌彦）

②だより

『国際平和ミュージアムだより』を刊行し、事業報告、関係者の随想、推薦本・収蔵資料・入館状況の紹介などを掲載している。

2002年度の刊行状況は以下の通りである。

通巻号数	巻	号	刊行年月日
26	10	1	2002年8月24日

27	10	2	2003年1月25日
28	10	3	2003年3月25日

主な記事は以下のようなものである。

●特別展報告

号	回	特別展名
26	37	画用紙に残された、あそこ—舞鶴市明倫 国民学校梅田学級児童画展・春期 舞鶴会場
26	38	REQUIEM インドシナ写真展—戦場に散 ったフォトジャーナリストたちの記録
27	39	世界報道写真展 2002
28	40	画用紙に残された、あそこ—舞鶴市明倫 国民学校梅田学級児童画展・秋期 国際平和ミュージアム会場

●案内

号	題
27	『舞鶴市明倫国民学校梅田学級児童画集』 刊行のお知らせ
28	『立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュー ジウム紀要』第4号刊行のお知らせ

●館長あいさつ「巻頭つれづれ」

号	回	題
26	22	ワールドカップ、終わる
27	23	デリル・ボドレイさんのこと

28	24	「無頓着」というスタイルの危険性
----	----	------------------

●企画運営委員連載

号	回	題 (執筆者)
26	18	日韓共催ワールドカップを見て思うこと (森田真樹)
27	19	つながれたミッシング—国際刑事裁判所 (ICC) 規定の発効に寄せて (安江則子)

●連載 リニューアルに向けて

号	回	題 (執筆者)
26	5	未来の国際平和ミュージアムのために (佐藤雅也)
27	6	常設展示リニューアルへの若干の意見 (朝治武)
28	7	意気高く—「革新・文化・創造・IT・協働」 を合言葉に (安斎育郎)

●ミュージアムおすすめの一冊（執筆者は山辺昌彦）

号	回	書名
26	23	内海愛子著『戦後補償から考える 日本と アジア』
27	24	倉沢愛子著『「大東亜」戦争を知っていま すか』
28	25	吉田裕著『日本の軍隊』

● スポット ミュージアムの収蔵品

号	回	題 (執筆者)
26	22	カンボジアの地雷関係資料 (山辺昌彦)
27	23	『尋常小学国史附図 (上)』より 「第二 神武天皇の巻」 (吉村涼子)
28	24	ギリシャの平和活動ポスター (吉村涼子)

27	第 9 回日本平和博物館会議に参加して (岡田英樹)
27	オランダ対日道義的債務基金一行、ミュージアムを訪問 (安斎育郎)
28	博物館学芸員課程 平和ミュージアム選択コース実習 実施報告 (山辺昌彦)

●これら以外に、「平和へのメッセージ」(常設展感想文)、入館状況、事業予告などを掲載している。

● その他記事

号	題 (執筆者)
26	立命館大学国際平和ミュージアムを訪れる調べ学習・体験学習 (山辺昌彦)
26	『CD-ROM岩波平和ミュージアム』学校図書館メディア大賞受賞報告 (渡辺勝之)
27	「世界学生平和フォーラム2002」—平和創造へむけての青年の課題を確認する (岡田英樹)
27	フォーラムをふりかえって (菅原千波)
27	夏期課研修旅行報告 (西田洋美)
27	「平和のための博物館市民ネットワーク」第 2 回全国交流会報告 (山辺昌彦)

6. 資料の特別利用

2002年度の展示会などへの主な貸出状況は次の通りである。

● 学童疎開展

主催：姫路市平和資料館

会場：姫路市平和資料館

会期：4.14～7.14

貸出：資料98点

● いくさの中の子どもたち

主催：福山市人権平和資料館

会場：福山市人権平和資料館

会期：6.12～7.28

貸出：資料7点、写真6点

● 世界の歴史教科書博覧会

主催：実行委員会

会場：立命館アジア太平洋大学

会期：6.12～16

貸出：資料58点、写真パネル10点

● 左京健康まつり

主催：実行委員会

会場：みやこめっせ

会期：7.14

貸出：資料1点

●全京都建築労働組合伏見支部戦争展

主催：全京都建築労働組合伏見支部

会場：支部事務所

会期：7.28

貸出：資料38点

●'02平和のための京都の戦争展

主催：実行委員会

会場：立命館大学国際平和ミュージアム

会期：7.31～8.8

貸出：資料19点

●'02平和のための戦争展わかやま

主催：実行委員会

会場：わかやま市民生協組合員ホール

会期：8.2～4

貸出：資料26点

●戦時下の出版物—時代を写す鏡に見る昭和の世相

主催：高知市

会場：高知市自由民権資料館

会期：8.6～15

貸出：資料21点

●平和展

主催：甲南町教育委員会

会場：忍ぶ里プラザ

会期：8.6～20

貸出：写真パネル 1 組

●原爆と人間—にんげんをかえせ—展

主催：永源寺町立図書館

会場：永源寺町立図書館

会期：8.7～25

貸出：写真パネル 1 組

●平和写真展

主催：宇治市平和都市推進協議会

会場：宇治市役所ギャラリーコーナー

会期：8.9～19

貸出：写真パネル 1 組と 3 枚

●2002平和展

主催：大阪狭山市平和事業推進協議会

会場：大阪狭山市立公民館

会期：8.10～11

貸出：写真パネル 1 組

●戦争と平和展

主催：安塚町

会場：安塚町町民会館

会期：8.10～25

貸出：写真パネル 2 組と14枚

●平和への道しるべ展

主催：大津市

会場：びわ湖大津館

会期：8.13～15

貸出：写真パネル 1 組

●宮津・与謝平和の集い

主催：実行委員会

会場：岩滝町知遊館

会期：8.10

貸出：資料72点

●第14回綾部戦争展

主催：実行委員会

会場：アスパ

会期：8.13～15

貸出：資料72点

●戦争と人々の暮らし—戦時下の吹田

主催：吹田市立博物館

会場：吹田市立博物館

会期：10.19～12.1

貸出：資料 6 点

●全戦没者追弔法会 非戦平和展

主催：真宗大谷派

会場：東本願寺

会期：3.25～5.18

貸出：資料13点

●戦時下の大阪—失われた文化財

主催：大阪国際平和センター

会場：大阪国際平和センター

会期：3.25～5.18

貸出：資料 1 点

(文責 山辺昌彦)